

令和5年度(令和4年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部博物館（新美南吉記念館）

教育部長 森田 知幸

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
35-1	新美南吉記念館展示室一部リニューアル事業	C	来館者数の目標値はコロナ明けと生誕110年の効果を最大に見込んだものだった。実際には昨年度の42%増、リニューアルを行った1月以降のみと91%増であり、目標値には届かなかったものの生誕110年が始まって以降特に増加していることが分かる。子ども向け解説やQRコードからの英語・中国語翻訳など多様な客層にも対応できるようになった。ただし、今回のリニューアルは主に展示内容そのものに関わるものが多く、もっと写真映えのするスポットを求める声もあった。	改善推進	ビデオシアターが現在生誕110年の特別仕様となっているため、今後継続して使用するための仕様に変更する必要がある。展示リニューアルの締めとして番組のボタン選択制を導入し、以前より利用しやすくする。展示パネルの刷新はいったん終了したが、来館者の声をききながら、展示ケース内に手を加えるなどできる限りのフォローを行い展示の改善を行う。フォトスポットについては企画展などを通して、時々特設のものを提供していく。
35-2	ストップモーションアニメごん上映事業	C	観賞者の評価が高く、喜ばれる一方で、上映する常設ビデオシアター部屋の定員が16名のため、休・祝日や、記念館イベント開催時には、立見や鑑賞を諦める方もいる。せっかく記念館に来館したのに本作品を落ち着いて観ることができない状態も発生しており、多数の来館者であっても鑑賞できるような仕組みを工夫する必要がある。また、当初借用契約していた配給会社が破産するという想定外の事故が起きたものの、新たな借用契約を締結するまで、破産管財人と調整し、上映を停滞させることなく、来館者に迷惑をかける事態を避けることができた。	改善推進	令和6年3月までの限定権利のため、期間中に、より多数の方に観てもらえるようにする。団体入館者、イベント時等、多数の来館者が見込まれるときは、常設ビデオシアターだけでなく、会議室等で上映できるようにする。また、条件付きで館外上映も可能であるため、これらを利用して鑑賞できる機会を幅広くPRしていく。
課等長	1次評価（令和4年度の総括評価）				
C	<p>展示室一部リニューアル事業では、既存の展示ケースやパネルの躯体を再利用するという制約の下で、最大限に新しい情報とデザイン性を加え、展示室の印象を一新できた。これまで足りなかった子どもや外国人への対応もでき、新しい時代にふさわしい展示室になった。</p> <p>ストップモーションアニメごん上映事業では、観覧席数の課題はあるものの、作品への評価も話題性も高い作品を上映することで、リニューアルとの相乗効果が得られている。</p>				
部等長	2次評価（令和4年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
C	<p>新美南吉生誕110年という世間の注目が高まる機会を捉え、誘客に繋がる環境を整えることができた。この成果を最大化するために、リニューアルで魅力が増した展示室の情報発信と、ストップモーションアニメごんのビデオシアター以外での上映に注力すること。また、今年度予定しているリニューアル二期工事において、ストップモーションアニメごんに替わる魅力的な映像番組の制作と上映環境の整備に努めること。</p>				